

事業所名		事業所における自己評価結果					公表日	令和8年 2月28日
リトルオレンジズ								
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		施設がキッズパークと併設されているため、トランポリンや2階のボルダリングスペースなども運動や個別支援に活用している。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		現在は、管理者1名、児童発達支援管理責任者1名、児童指導員3名、指導員1名を配置している。必要に応じて、配置人数を増員し、支援を行っている。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		今日の利用者や活動の時間や流れが一目で分かるようホワイトボードに掲示し、可視化している。利用者・職員の状況に応じて、手すりやスロープを設置している。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		厚生労働省の放課後等デイサービスガイドラインに従い、適切な設備等を整備している。	来客者に出入り口の扉が分かりづらい時があるため、シール等で表示します。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		レッスン場所と自由時間の場所を区分けするなどの工夫を行っている。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		毎日、職員ミーティングを実施しているため、都度要望が上がる仕組みになっている。日々目標と振り返りを行い、業務改善に努めている。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者・利用者との会話と日頃からニーズを汲み取るようにしている。評価表を活用しての保護者のアンケートは2月に実施し、今回は53.3%だった。結果分析・問題改善に向けて職員ミーティングで話し合い、迅速に対応している。	指摘されたことが改善されているか、個人レベルでも振り返りを行う。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎月、月末に管理職の職員で定例会を行い、職員からの意見等を話し合う機会を今年度より設定している。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		JCNEによる第三者評価を実施。評価結果を基に、業務改善を進めている。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		事業所内外の研修会、施設見学を積極的に行い、日々の業務に活かすようにしている。	研修で得た知識を元にOJTを実施し他の職員にも落とし込んでいきたい。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムを適切に作成・公表するため研修会に参加、SNS等で公表している。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		6ヶ月ごとにアセスメントと保護者モニタリングを行い、それぞれのニーズや課題を児童発達支援管理責任者が分析を行い、作成している。	アセスメントシートを有効活用できていなかった。アセスメントシートの情報もしっかりと考慮し、計画書を充実させていく。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童発達支援管理責任者が作成した原案を基に、職員間でケース会議を行い、職員の意見を取り入れた計画書を作成している。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		ケース会議を行い、個々の支援計画書の確認を行ったうえで、計画に沿った支援を行うと共に、臨機応変に対応した支援を実施している。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		アセスメントやWISCなどの検査結果など参考資料を基に、適応状況の確認が適宜行われるようにしている。			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のわら及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		個別支援計画書の作成の際に、わら及び支援内容を踏まえて作成し、保護者や支援員が分かりやすい支援内容を記載するよう、努めて設定している。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		支援員・外部講師と一緒にプログラムの立案を行う。実際のレッスンで気づいたこと、修正が必要な際はその都度、しっかりと意見交換を行うようにしている。			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		週替わりで10分集中の活動を準備し、利用者のニーズやレベルに合わせて実施している。			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		10分集中、自由時間などの遊びを通して、個別活動とグループ活動をバランスよく組むように計画している。			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎日職員ミーティングを設け、利用者の把握や送迎、活動内容などをチームで確認を行っている。議事録を残し、休みの職員も後で共有できるようにしている。			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。	○		毎日、前日の活動の振り返りを行い、気になったことや良かったことなどを、当日は職員間で情報共有を行いながら日誌に記録し、翌日に振り返りも兼ねてミーティングを行っている。			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		些細なことでも日誌への記録・送迎時の会話で保護者からのフィードバックもできている。			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		6ヶ月に一回と必要に応じてモニタリングを行い、計画書の見直し、支援の見直しを随時行っている。			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		毎日の活動にガイドラインの基本活動を取り入れている。			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を育むための支援を行っているか。	○		一人ひとりの課題やニーズに合わせて、その場に応じた活動参加方法の選択や支援が出来るよう複数パターン用意し、本人が選択できるよう工夫を行っている。			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		管理者または児童発達支援管理責任者が他の支援員と情報を共有したうえで、担当者会議に出席している。			
	27	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		各種施設と連携を取る体制を整えている。必要に応じて、情報共有の場を設ける。			
	28	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	○		積極的に学校関係者と情報共有をし、必要に応じて学校での担当者会議の開催を求め、情報共有に努めている。			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		利用開始に伴う担当者会議を行い、必要に応じて、幼稚園・保育所・児童発達支援事業所の参加を相談員に求め、情報共有を行っている。			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		就労移行支援会議への参加をするように努め、情報共有を行っている。また、就労移行支援後の様子については、把握できるよう情報収集に努めている。			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		社会福祉協議会や地域振興局などから案内された研修に、積極的に参加している。			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		他放課後等デイや学童との交流の為、ドッジボール大会・運動会へ参加したり、カラーセラピー講座やマルシェの開催、キッズパークのお客さんと一緒にそうめん流しをするなど、障がいのない子どもとも触れ合う機会を設けている。			
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	○		自立支援協議会から、協議会の案内があれば積極的に参加し、その他にも就労自立支援事業所等の見学を行っている。			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		連絡帳や送迎時を利用し、保護者との共通理解に努めている。			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		モニタリング・事業所内相談支援・保護者同士の意見交換の会やカラーセラピーを開き、話をする機会を設けている。			
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約の際に保護者との読み合わせを行っている。			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		保護者モニタリングや担当者会議を通して、こどもと保護者の意向を確認する機会を設けた上で、計画書の作成を行っている			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		日頃から、保護者との情報共有や変更事項などの伝達を密に行い、支援計画書の説明等の同意を確実に得ることが出来ている。	利用者本人にも計画書の内容を理解してもらうための機会を作っていく。		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者と信頼関係を築き、相談しやすい環境を作り、保護者や利用者に寄り添い、相談の声掛けを行っている。			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		保護者イベントとして、保護者同士の意見交換会を開催している。また、ご家族で参加できるイベントのご案内を行っている。	これまで、ご家族で参加できるイベントの機会はあったが、積極的なお父様方のイベント参加が少ない傾向にあった為、今年度はお父様方にもご参加しやすい、イベントの企画い、開催を予定している。		
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情対応マニュアルを策定し、窓口や責任者を明確にした上で、記録・報告・解決に向けた取り組みをしている。	苦情は成長のチャンスと捉え、丁寧に対応していく。		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		昨年度の自己評価を活かし、今年度はSNS投稿の頻度を週1回に増やすことができている。			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		保護者と契約の際に、個人情報取り扱いについての説明と契約を結び、全職員と機密保持・業務運営誓約書を交わり、情報漏えい等の防止を行っている。			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		保護者への連絡はできるだけ文章を短くし、箇条書きにしたり、具体的な数字を使うなど伝わりやすい工夫をしている。電子連絡帳の使用が難しい保護者には、その日の様子など紙媒体で伝えるようにしている。			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		主催するヨガイイベント、マルシェ、カラーセラピー等に地域住民を招待している。			
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアルを作成しデイの入り口付近に掲示し、保護者への周知に努めている。			
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画(PCB)の策定・講習会への参加を行い、避難訓練強化月間を設け、ハザードマップや参考動画を活用しながら、火災・地震・風水害・不審者対策の4パターンの要点を学習。避難経路・緊急時の対応について職員も含め、利用者全員で確認している。			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		アセスメントシートや保護者モニタリングを通して確認し、変更があった際には保護者様と適宜確認をしている。			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		アレルギーのある利用者の保護者より、医療機関からの調査結果を共有し、職員内で周知している。			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		放課後等デイサービス協議会や社会福祉協議会などの研修会に積極的に参加し、安全管理を徹底した上で、支援を行っている。			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		緊急時の連絡先の把握を行い、保護者と連携を図り、安全計画を基に保護者への理解・周知を行っている。			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットの様式を準備し、事業所内で積極的な記入を声掛けしている。また、振り返りをミーティングで行っている。			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会の設置・指針の整備・周知を事業所内で行い、外部研修へも積極的に参加している。			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束等適正化委員会の設置・指針の整備を行っているが、現時点で必要に駆られる事態は発生していない。			